

## BB11011 社会学基礎論

2.0単位 1・2年次 春AB火5,6

奥山敏雄

### 授業概要

社会現象に対する社会的な見方や問いの立て方の特質は何か、問題を設定し議論を構築するためにどのような概念が用いられているのかという点に関して、基礎的な部分を概説する。

備考 社会学類以外の学生については、受講者の制限を行うことがある。主専攻必修科目。

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

あるテーマについて社会的に考察せよという課題を与えられても、とまどう人のおおいだろう。社会学のテーマは多岐にわたるし、用いる概念も多様であるため、社会的な見方や考えたとひとくちにいつてもつかみにくいことも確かだ。それでも一見多様なテーマにも、共通する問いの立て方のクセのようなものがある。社会的な見方や考え方のクセはどんなものなのか身につけることを目標とする。

### 授業の進行予定

社会学の成立期の問いや古典的な業績を概観しながら、社会的な問いの特質について考える。次に、多様な社会学のテーマに通底する社会的思考の最もベーシックな部分について概説する。そのうえで、現代社会についての具体的なテーマをいくつか取り上げながら、問題設定、概念、知見について概説する。

- ・「社会学とは何か」と言われても
- ・社会学成立期の問い
- ・社会学の古典的業績
- ・社会的リアリティー
- ・社会と自己
- ・コミュニケーションと社会システム
- ・現代社会への様々な問い

### 単位取得要件

期末試験によって成績を評価する

### 授業外の予習復習方法

予習は必要としないが、授業で紹介された参考文献を必ず読んで、考える練習をすること

### 教材等

教科書は使用しない。参考文献は授業のなかで適宜紹介する。

### オフィスアワー

面談が必要な場合は、事前にメールで日時の約束が必要

### 学生への要望

## BB11021 現代社会論

2.0単位 1・2年次 秋AB金4,5

森直人

### 授業概要

「連帯と承認」の変容と展望を主たるテーマとして、グローバル化と個人化という社会変動のもとにある現代社会を「後期近代」という問題把握のもとに考察する。「福祉国家」の変容という背景を押さえつつ、教育と労働という領域とそれら相互の接合のあり方を主たるトピックとして論じる。

### 備考

▼社会・国際学群 コア・カリキュラム AC33141, AC64431, BC11801と同一。主専攻必修科目。社会教育主事

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

「連帯と承認」の変容と展望を主たるテーマとして、グローバル化と個人化という社会変動のもとにある現代社会を「後期近代」という問題把握のもとに考察する。「福祉国家」の変容という背景を押さえつつ、教育と労働という領域とそれら相互の接合のあり方を主たるトピックとして論じる。

### 授業の進行予定

- (1) イントロダクションとして社会学の視角と方法について簡単に解説したのち、後期近代あるいは再帰的近代化という問題把握について、とくに「個人化」という社会変動の意味に焦点をあてて論じる。
- (2) その後、個別トピックについて社会的な視角と方法をもちいて論じていく。各論は、「自己啓発と人格承認」、「総中流社会と格差社会」、「“ゆとり教育”の神話」、「日本型雇用システムのゆらぎ」、「学校から職業への移行」、「感情労働と“ブラック企業”」、「“草の根保守運動”と排外主義」といったトピックを予定している。
- (3) 講義の最終回にはまとめとして、グローバル化と個人化という社会変動のもとで問い直されている〈社会的なるもの〉について論じる。「平等と連帯」を志向する価値的な議論に踏み込んだ検討をしたうえで、翻って「価値自由」なる社会学のスタンスを再確認することで講義を閉じることにしたい。

### 単位取得要件

授業中に課される小課題と期末のレポート論文による評価。

### 授業外の予習復習方法

(2)の各論では毎回事前に読んでおくべき文献を指定したうえでmoodleにおいて参照可能にしておくので、必ず事前に読んだ上で出席すること(学期途中にいくつか小課題を課す予定)。

### 教材等

教科書は指定しない。各論については上述の通り、各回授業前にmoodleに指定文献の情報を挙げておく。初回と最終回に関する参考文献は下記参照。

1. [初回] 稲葉振一郎『社会学入門——“多元化する時代”をどう捉えるか』日本放送出版協会(NHK  
ブックス)、2009年.

2. [最終回] 市野川容孝『思考のフロンティア 社会』岩波書店、2006年.

オフィスアワー

メールにより随時受付

人文社会学系棟 A409 [mori.naoto.fw@u.tsukuba.ac.jp](mailto:mori.naoto.fw@u.tsukuba.ac.jp)

学生への要望

講義全体をとおして、かなり「読み」、そして「書く」ことを課す予定なので、あらかじめ了解しておくこと。  
講義の運営にあたってはmoodleを最大限活用するので、履修予定の者はあらかじめ当該システムの  
利用法について学術情報メディアセンターが提供する情報やサービスを参照し、理解しておくこと。

## BB11281 社会統制論-犯罪社会学II

2.0単位 2 - 4年次 秋AB火2,3

土井隆義

### 授業概要

犯罪現象を素材に社会的なものの方について理解することを目指す。とくにこの講義では少年犯罪を題材として取り上げ、犯罪を統制する側にある社会の仕組みについて考察を進める。あわせて、社会のなかで私たちが犯罪現象に接することの意味についても考えたい。

備考 旧科目名「犯罪社会学II」

授業形態 講義

### 授業の目標と概要

犯罪現象を素材に社会的なものの方について理解することを目指します。とくにこの講義では少年犯罪を題材として取り上げ、犯罪を統制する側にある社会の仕組みについて考察を進めます。あわせて、社会のなかで私たちが犯罪現象に接することの意味についても考えたいと思います。

### 授業の進行予定

以下の構成で進めます。第1回 イントロダクション～社会的事実としての犯罪現象～ 第2回 白書統計から眺めた少年犯罪の趨勢(1) 第3回 白書統計から眺めた少年犯罪の趨勢(2) 第4回 保護の対象から責任の対象へ(1) 第5回 保護の対象から責任の対象へ(2) 第6回 社会の病理から個人の病理へ(1) 第7回 社会の病理から個人の病理へ(2) 第8回 不寛容な社会のパラドクス(1) 第9回 不寛容な社会のパラドクス(2) 第10回 まとめ～犯罪者の「モンスター視」を超えて～ 各回とも口述による講義と映像資料の視聴を組み合わせる授業を進めます。

### 単位取得要件

論述形式の試験によります。

### 授業外の予習復習方法

各自でデータを収集し、その解釈をいろいろと試みてください。

### 教材等

授業の内容を深めたい方は、下記の文献を参考にしてください。

1. 土井隆義『人間失格? -「罪」を犯した少年と社会をつなぐ-』日本図書センター(2010年)  
その他の参考文献は、授業のなかで該当する項目ごとに紹介します。

### オフィスアワー

履修について相談のある方は下記に従ってください。特に定めないので面会希望者は個別に連絡してください。

人文社会学系棟 A411 4078 doi@social.tsukuba.ac.jp

面会のアポインは電話かメールにて行なってください。

### 学生への要望

ただ授業を受けて終わりにするのではなく、自分で主体的に考えるためのガイドラインとして授業を活用してください。

## BB11291 文化社会学

2.0単位 2 - 4年次 秋AB金3,4

黄順姫

### 授業概要

グローバル化の現代社会において、身体管理の文化(化粧、ファッション、プチ整形等)及び大衆文化(J-pop・K-pop, 漫画、アニメ、コスプレ・メイド喫茶等)を文化社会学の観点から考察する。「共生的生産・消費」を道具概念に、SNS, Twitterのニューメディアによる世界的な拡散を中心に、遊びの文化の新たな形態を分析する。

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

受講者は、グローバルシステムの変容、個人が帰属する社会構造の変容、個人の文化実践のあり方の変容が表象する現代社会の文化をいかに分析できるかの方法と実践を学ぶ。1. 社会学理論を学び道具概念を身につける。2. 受講生自らが論理の追求する力を高める。3. テーマを選別し、それに適切な資料収集の方法及び実践・分析する力を身につける。4. グループを作り、プレゼンをしてみることで、プレゼン力を養成する。

### 授業の進行予定

1. 文献講読で社会学理論を学ぶ。2. 授業で提示されている文化領域から自ら興味のあるテーマを選び、資料収集を行う。3. グループを作り、プレゼンを行う。4. 互いのプレゼン内容について質問・応答を通して、理解と分析を深めていく。

### 単位取得要件

授業での積極的に参加、発表、レジメの提出

### 授業外の予習復習方法

自主的な勉強を個人、またはグループで、自由に行う。

### 教材等

黄順姫『同窓会の社会学』世界思想社、2007年。

黄順姫「学校体育における身体文化の多重性と両義性」杉本厚夫編『体育教育を学ぶ人のために』世界思想社、2011年

黄順姫「身体文化と象徴的暴力ー文化戦略としての化粧」、日本スポーツ社会学会編『変容する現代社会とスポーツ』世界思想社、1998年。

黄順姫「新韓流の文化社会学ー韓国大衆文化の日本的遊びの構造と実践」『社会学ジャーナル』37号、2012年、1-20頁。

M. チクセントミハイ著、今村浩明訳『フロー体験 喜びの現象学』世界思想社、2000年。

オフィスアワー 金曜日5時限

### 学生への要望

自らが、知的好奇心で、楽しく勉強をすること。

## BB11361 歴史社会学

2.0単位 2 - 4年次 春AB火3,4

野上元

### 授業概要

社会学で歴史を扱う意味や意義とは何だろうか？ 歴史学の研究テーマや研究方法とはどのように違うのだろうか。講義では(1)社会変動論(「近代化」および「現代化」)、(2)社会学における歴史的研究の諸方法について、また(3)現代社会における歴史意識や集合的記憶についての社会学的諸研究についても紹介したい。

### 備考

授業形態 講義

### 授業の目標と概要

社会学がいかにして歴史に取り組んできたのかを学び、現代社会における歴史の意味や機能を考えることで、私たちの社会が直面する諸問題に様々なかたちで「歴史」あるいは「時間軸」を挿入して考える思考様式を養う。

### 授業の進行予定

授業は「歴史社会学」「歴史の社会学」の二部構成になっている。

- 1) イントロ「歴史社会学」と「歴史の社会学」
- 2) 歴史社会学(1):「近現代日本」の歴史社会学
- 3) 歴史社会学(2):「近代」「現代」とは何か
- 4) 歴史社会学(3):歴史社会学の諸方法
- 5) 歴史の社会学(1):「歴史」表象の文化社会学
- 6) 歴史の社会学(2):歴史の歴史~「歴史」の機能を考える
- 7) 歴史の社会学(3):歴史意識の現代社会学~「成長」「喪失」「反復」をめぐって

### 単位取得要件

適宜、授業中に簡単なテストもしくは課題を課す。また、「歴史の社会学(1)~(3)」を範囲にした期末レポートを課す。これらを全てこなしていなければ、単位は与えられない。

### 授業外の予習復習方法

教科書はないが、授業中にブックリストを配布する予定である。特に指示はしないが、課題やテスト、期末レポートに向け、これらを参考にして自分で勉強して欲しい。

### 教材等

読むことが学びの入り口になるもの(A)、比較の見通しのよいもの(B)を以下に挙げる。

1. (A)阿部謹也『自分のなかに歴史をよむ』ちくま文庫、2007年、630円
2. (A)川田順造『無文字社会の歴史』岩波現代文庫、2001年
3. (B)ピーター・バーク(佐藤公彦訳)『歴史学と社会理論』慶應義塾大学出版会、2006年、5800円

4. (B)小林多寿子編『ライフストーリーガイドブック-ひとがひとに会うために』嗟峨野書院、2010年、3360円
5. (A)保莉実『ラディカル・オーラル・ヒストリー』御茶ノ水書房、2004年、2310円
6. (B)『岩波講座哲学11 歴史/物語の哲学』岩波書店、2009年、3200円

オフィスアワー

学生への要望

## BB11401 コミュニケーション論

1.5単位 2・3年次 春ABC月5

海後宗男

### 授業概要

コミュニケーション論の誕生とその変遷、コミュニケーションの過程と効果について学習する。  
特に社会的コミュニケーションの受容過程と文化について考える。

### 備考

西暦奇数年度開講。AC33601, AC64301と同一。コミュニケーション論A(AC33021ないしBB11481)の単位取得者は履修できない。

授業形態 講義

### 主旨

効率的に情報を伝達することについては、コミュニケーション学で多くの知見が得られており、これを実生活に応用することは意義があるといえる。コミュニケーションを通して意見を交換し、新たな考えを生み出していくというダイナミックな目的もあるが、これについても、相互作用を重視するコミュニケーション学の知見が役に立つ。以上のように、この授業では、コミュニケーション・プロセスに関する知見を、応用できるようになることを目的とする。

### キーワード

### 内容

コミュニケーションに関する概念や専門用語を理解し、かつ、それらを使って具体的なコミュニケーション現象についての分析ができるようになることを目的とする。

- 第1回 オリエンテーション・イントロダクション
- 第2回 コミュニケーション:その領域の背景と目的・モデル(1)
- 第3回 コミュニケーション:その領域の背景と目的・モデル(2)
- 第4回 コミュニケーションの分析手法の違いと諸領域(1)
- 第5回 コミュニケーションの分析手法の違いと諸領域(2)
- 第6回 コミュニケーションの精度
- 第7回 インターパーソナル・コミュニケーション
- 第8回 コミュニケーションによる人間関係
- 第9回 不確実性低減理論
- 第10回 コミュニケーションの影響(1)
- 第11回 コミュニケーションの影響(2)
- 第12回 異文化間コミュニケーションの問題
- 第13回 コミュニケーションとリスク(1)
- 第14回 コミュニケーションとリスク(2)
- 第15回 総括
- 第16回 定期試験



#### 評価方法・基準

各種課題の提出状況・出席・定期試験による評価。学習態度とマナーを重視。

#### 参考文献

Berlo, D. K., *The process of communication*, Holt Rinehart & Winston (D. K. バーロ著『コミュニケーション・プロセス』、共同出版)。

Berger, C. R., Calabrese, R. J. (1975). Some Exploration in Initial Interaction and Beyond: Toward a Developmental Theory of Communication. *Human Communication Research*, 1, 99-112.

Festinger, L. (1957). *A theory of cognitive dissonance*. Stanford, CA: Stanford University Press.

Gudykunst, W. (1998). Applying anxiety uncertainty management (AUM) Theory to intercultural adjustment training

その他の参考文献は必要に応じて授業で紹介する。

#### オフィスアワー

[twitter.com/mkaigo/](https://twitter.com/mkaigo/)

#### その他

(1)授業中の入退室は禁止する。(2)オフィスアワーは事前アポにより。研究室は人社棟B816。

## BB11511 地域社会学

2.0単位 2 - 4年次 春AB金2,3

五十嵐泰正

### 授業概要

現代の地域における様々な局面での人々の「つながり」の衰退と再建について、貧困、マイノリティ、若者文化、地方政治などさまざまな問題領域にわたって検討する。

### 備考

2学期制への移行に伴って再編された科目であるため、2011年度開講の「都市社会学」履修者は、2013年度開講の本科目を履修することはできない。

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

現代の地域における様々な局面での人々の「つながり」の衰退と再建について、貧困、マイノリティ、若者文化、地方政治などさまざまな問題領域にわたって検討する。

### 授業の進行予定

現代社会ではさまざまな局面で、人間関係の希薄化、コミュニティの崩壊が懸念されているが、それは、旧来型の地縁やしがらみを嫌い、便利で安心な消費生活を営みたいという市民の根強い欲求の結果でもある。その一方で近年、若者たちの中に移動志向の減退と表裏一体のジモト志向の高まりが指摘されるようになってきた。こうした状況の中で、地域の中で人の「つながり」の再建をどう捉えていけばいいのだろうか。あるいはそもそも、再建していく必要があるのだとすれば、それはなぜなのか。社会関係資本の考え方をひとつの軸線に、貧困とマイノリティ、若者たちの文化実践、ゲートドコミュニティ、そして地方政治など、現代の都市に生活する人々が直面する幅広い問題領域を、日本や欧米の事例を参照しながら多角的に検討していきたい。

第1回 コミュニティ志向の上昇? 第2回 都市化とコミュニティをめぐる社会理論の展開 第3回 社会関係資本とは何か 第4回 貧困と社会関係資本 第5回 エスニック・マイノリティと社会関係資本 第6回 若者たちのつながりの可能性と限界(1) 第7回 若者たちのつながりの可能性と限界(2) 第8回 ゲートの中でのつながり 第9回 コミュニティから見た地方政治論(1) 第10回 コミュニティから見た地方政治論(2)

### 単位取得要件

学期末の4000字程度のレポートにより評価する。状況に応じて、授業内小課題等を実施して成績に加味する場合がある。

### 教材等

講義は、毎回配るレジュメと資料に沿って行われるが、下記の教科書を参照することが多くなる。

1. 中筋直哉、五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房、2013年  
ほかにも、授業内で指示する文献などを、各自批判的に参照することが望まれる。

オフィスアワー 金曜4限

学生への要望

## BB11591 現代社会学の系譜

2.0単位 2 - 4年次 秋AB木4,5

葛山泰央

### 授業概要

〈民主主義(デモクラシー)〉の系譜をテーマに、近代社会・現代社会における〈民主主義〉文化の展開について、いくつかのテキストの分析を通して検討するなかで、政治的・社会的想像力の現在を探究する。

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

〈社会学以前の社会学的思考〉の展開を、古典的文献や関連するテキストの分析を通して検討するなかで、比較社会的・歴史社会的想像力の現在を探究する。具体的には、アレクシス・ド・トクヴィル(Alexis de Tocqueville 1805-1859)によるいくつかの著作を、〈啓蒙への問い〉、〈アメリカの観察〉、〈デモクラシー〉と社会変動、社会的状態と習俗の理論、政教分離と市民社会、民主主義的専制と個人主義、歴史と記憶、〈革命と反復〉等の主題に即して検討するなかで、〈社会学以前の社会学的思考〉とその現代的意義について考察する。

### 授業の進行予定

イントロダクション／〈啓蒙とは何か〉／〈アメリカを観察する〉／トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第一巻(1835年)／トクヴィル「1789年前後におけるフランスの社会的・政治的状態」(1836年)／トクヴィル『アメリカのデモクラシー』第二巻(1840年)／トクヴィル「回想録」(1851年)／トクヴィル『旧体制と大革命』(1856年)／〈啓蒙の運命〉(ヴェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』、ホルクハイマー＝アドルノ『啓蒙の弁証法』、フーコー『古典主義時代における狂気の歴史』)／〈歴史と読解〉 ほか

### 単位取得要件

毎回の出席と復習小レポートの作成、中間レポート、期末レポート等による総合評価

### 授業外の予習復習方法

本講義はトクヴィルのテキストを分析することを中心に進めるが、受講者各自には、講義外に既存の翻訳書や研究書を参照することのほか、テキストの分析を通して浮かび上がってくる〈デモクラシー〉社会の現代的展開について考察することも要求される。

### 教材等

教材はトクヴィル『アメリカのデモクラシー』(岩波文庫)ほかを使用する(適宜資料も配布する)が、関連する文献やテキストについては講義の際に適宜指示する。

### オフィスアワー

人社棟A413 月曜5時限

### 学生への要望

このテーマについての参考文献として、富永茂樹(著)『トクヴィル——現代へのまなざし』(岩波新書 2010年9月)を挙げておくので、開講までに熟読しておくこと。

## BB11641 家族社会学

2.0単位 年次 春AB木4,5

樽川典子

### 授業概要

親密圏を象徴する現代家族について、個人-家族-国家(社会)を関連づけている考え方に依拠しながら、その機能と家族変動論がもつ特質を考察し、現代家族にむけられるまなざしを考える。

### 授業形態 講義

### 授業の目標と概要

現代の家族に特徴的なトピックスをとりあげ、家族の問題が社会の諸レベル生じている変動と関連し、あるいは対立しながら生じていることや、問題の諸層を理解する。具体的には家族のケア機能とそれを取りまく環境諸条件の変化を、個人化と家族の愛情、自立とつながりの希求、コミュニティの変容など関連づけて検討してゆく。

### 授業の進行予定

第1回 はじめに

第2回 “家族”は誰が定義するのか

第3回 “遠婚時代”～シングル化社会の諸層

第4回 ベビーカー論争～子ども価値を考える

第5回 保育所の問題～制度としての家族と地域社会

第6回 未亡人・遺児家庭・単親世帯～シングル・ペアレントの諸カテゴリー

第7回 団塊世代の老後～近代家族の限界

第8回 死と埋葬の変化～家族と死後の自己決定

第9回 死者という家族の存在

第10回 おわりに

### 単位取得要件

授業内の課題および最終レポートで評価をおこなう。課題は授業内容の理解、企画力、展開力を基準とし、レポートは授業内容をふまえ具体的な事例を整理した論述を基準とする。

### 授業外の予習復習方法

授業で紹介する文献を読む

### 教材等

1. 岩上真珠、鈴木岩弓、森謙二、渡辺秀樹『いま、この日本の家族一絆のゆくえ』弘文堂2010  
各回のテーマに即した参考文献は、授業のさいに紹介する。

オフィスアワー 火曜日5時限

### 学生への要望

## BB11761 ジャーナリズム論Ⅰ

1.5単位 2 - 4年次 春ABC水3

福原直樹

### 授業概要

ジャーナリズム論の基礎について学習する。

### 備考

AC33741,AC64451と同一。印刷文化論(AC33121)の単位取得者は履修できない。

### 授業形態

講義

### 授業の目標と概要

全国紙で事件記者を15年、海外特派員を15年担当した教員の経験に基づき、本論Ⅰ・Ⅱでは、事件・海外・戦場などの現場での報道の問題点を分析する。また、これらを通じ「モノの見方」(社会事象をいかに見るか)も考えていく。Ⅰでは「スクープ論」「誤報論」「戦争報道の在り方」などの基本を概説し、各テーマに即した時事問題も随時取り上げる。また記事の執筆も試みてもらい、「聞く力」「書く力」「新聞を読み解く力」なども養成する。講義では参加者の発信力を高めるため、質疑応答形式を基本とする。

教員は事件記者としては、警視庁などで汚職や組織暴力などを担当したほか、特派員としてはジュネーブでスイス政治や国連機関、ブリュッセルで欧州連合(EU)、北大西洋条約機構(NATO)などを担当。またパリで欧州政治のほか、フランスやスペイン、ポルトガルの現状を見た。この間中東、旧ユーゴ、アフリカ各国などでの戦場取材も数多く経験している。

### 授業の進行予定

#### テーマ1. 授業の概要説明と初歩的实践

ある事件・事故を設定し、それに関する“広報文”を元に、まとまった記事を作り上げることを試みる。表面的な「発表事実」だけではなく、そこから「聞く力」を活用して新たな事実を引き出したうえで、事象の全体像を俯瞰する「モノを見る力」を養う。

#### テーマ2. 取材論

「人間関係の作り方」や「情報の引き出し方」、「説得術」「取材源の秘匿」など、「取材とは何か」についての基本論を具体例に即し概説する。

#### テーマ3. 会見・発表論

「当局の発表」とは何かを実際例に即し解説。発表の裏に隠される「真実」を知り、同じ素材を見てもなぜ新聞によって記事の中身の濃さ・薄さが出るかを見る。

#### テーマ4. 特ダネ(スクープ)論①

特ダネ(スクープ)とは何か、なぜそれが必要かを考えるほか、特ダネに様々な種類があることなどを過去の記事(日本語、英語)を元に概説する。

#### テーマ5. 調査報道論①

調査報道の意義やその行い方などを、過去の記事を元に概説する。同時に情報公開に関する問題点についても触れる。

#### テーマ6. 誤報論①

誤報とは何か、なぜそれが起こるのかなどを、過去の例から分析する。また誤報の防ぎ方なども考える。

#### テーマ7. 戦争報道論①

戦争報道の実態を、過去の記事例や教員の経験から分析する。

#### 単位取得要件

レポート提出を求める予定だが、希望がある場合はテストも実施する。

#### 教材等

教材は過去の新聞記事・放送ビデオなどを講義の際、随時配布/視聴する。参考文献としては天野勝文・橋場義之編著「新・現場から見た新聞学」(学文社)や福原直樹「黒いスイス」(新潮新書)のほか、ハルバースタム、ソールズベリー、ウッドワードなど米ジャーナリストの各著書を推薦する。詳細は講義で述べる。

#### オフィスアワー

教員とアポイントメントを取ること 人文社会学研究棟A724

#### 学生への要望

受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば新聞を実際に購読することが望ましい。

## BB11771 ジャーナリズム論II

1.5単位 2 - 4年次 秋ABC水3

福原直樹

### 授業概要

ジャーナリズム論の詳細やマスコミ報道の問題点について学習する。

### 備考

AC33751,AC64461と同一。印刷文化論(AC33121)の単位取得者は履修できない。

### 授業形態

講義

### 授業の目標と概要

本論 I の応用編。I で「聞く力」「書く力」「新聞を読み説く力」や、それに基づく「モノの見方」の基本を学んだことを踏まえ、「スクープ論」「誤報論」「戦争報道論」「海外報道の現場論」などの詳細を概説。さらに「事件報道(誤報)での人権侵害」「ニューメディアとオールドメディアの関係」「記者クラブの是非」「情報公開の現状」「新聞社/テレビ局の組織概要とそれぞれの取材方法」「社説のできる過程」など、報道現場を知るうえで欠かせない各論を考える。本論 I をさらに進めた形で、過去・最近の記事(時事問題)を元に詳細なケーススタディも行うほか、実践的な記事(論説)作成も試みる。

本論は I・II を通じ、ジャーナリスト志望者だけを対象に行うものではなく、将来社会に出た時に実践的に役立つ「モノの見方」をいかに養うかを目的ともしている。I 同様、II でも授業では参加者の「発信力」を高めるために活発な質疑応答の場としたい。

### 授業の進行予定

#### テーマ1. 授業の概要説明と実践的な論説記事の作成

国際的な時事問題をテーマに、論説記事を書くことを試みる。その際、「起承転結」の原則など、わかり易い論説記事の書き方を概説。大手各紙の論説(社報)のでき方や、論調の違いなども分析する。

#### テーマ2. 誤報論②と人権侵害

過去の誤報事例を列挙し、それがいかに人権侵害を引き起こしたかを見る。またネットにおける人権侵害の事例についても言及する。

#### テーマ3. 戦争報道論②

教員が実際に戦場で経験した事例をもとに、戦争報道の問題点を、さらに詳しく見る。教員は戦場での実践的な身の守り方などについて、英国で同国の元海兵隊員らが行うセミナーで学んだことがあり、授業ではこの詳細にも触れる。

#### テーマ4. スクープ論と調査報道論②

スクープや調査報道の端緒となる「ネタ」について、それをいかに見出すかなどを概説したうえで、スクープや調査報道の取材の在り方を過去の例を元に検証する。情報公開の現状や問題点についても触れていく。

#### テーマ5. 海外特派員の現場論

普段は表に出ることが少ない海外特派員の現場を知る。教員の経験に基づき、「欧州連合(EU)報道」「国連報道」「各国からの政治・経済・事件報道」などの状況を概説したうえで、日本の新聞・テレビの海外報道の問題点

を分析する。

#### テーマ6. マスメディアの機構論

新聞社／放送局の組織概要や記事、番組の作り方を概説する。新聞各社のオピニオン面の制作過程などにも言及するほか、記者クラブ制度の是非や、いわゆる“客観報道”の問題点なども分析する。放送局の仕組み／番組の作り方については、学外講師の招聘も視野に入れ、具体的に見ていく。

#### テーマ7. ニューメディアとオールドメディア

SNSの発展に対し、新聞／放送など「オールドメディア」はどう対応していくかを考える。SNSの発展で将来、新聞はなくなってしまうのか(いわゆる新聞「終焉」論は正しいのか)などを分析する一方で、SNSの問題点なども議論していく。

#### テーマ8. ニュージャーナリズム論

70～80年代「徹底的な取材で事象を克明に再現する」ことを目的とするニュージャーナリズムが一世を風靡した。本講義ではその内容や代表的なジャーナリストに触れ、ニュージャーナリズムの今日的な意義を検証する。

### 単位取得要件

レポート提出を求める予定だが、希望がある場合はテスト実施も可。

### 教材等

教材は過去の新聞記事・放送ビデオなどを講義の際、配布／視聴する。参考文献としては天野勝文・橋場義之編著「新・現場から見た新聞学」(学文社)や福原直樹「黒いスイス」(新潮新書)のほか、ハルバースタム、ソールズベリー、ウッドワードなど米ジャーナリストの各著書を推薦する。詳細は各講義で述べる。

### オフィスアワー

教員とアポイントメントを取ること 人文社会学研究棟A724

### 学生への要望

受講者は恒常的に新聞・テレビ・ネットなどのニュースに目を通すこと。できれば新聞を実際に購読することが望ましい。



## BB11772 ジャーナリズム特別演習

2.0単位 3・4年次 秋ABC金6集中

福原直樹

### 授業概要

### 備考

参加資格は特にないが、「青木彰記念講座ジャーナリズムとメディアの現在」を受講済か受講中である場合、演習の理解が深まる。本演習は少人数で行うことが理想なため、参加希望者が多い場合は、何らかの方法で受講者を選抜する場合がある。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

全国紙の事件記者と海外特派員をそれぞれ15年ずつ務めた教員の経験をもとに、本演習では「記事構成論」を踏まえたうえで、ジャーナリスティックな文章(例えば新聞記事)の作成法を学ぶ。これと同時に就職試験に見られるような「作文」や「論文」などの作成能力も養成する。

演習ではまず、日本や米国、欧州の新聞や雑誌などの記事を細かく分析し、各記事が「どのような目的のもとに、どのような要素を入れて書かれているのか」などを見て、記事作成に関する一定のルールを抽出する(「記事構成論」)。これと並行して、ジャーナリスティックな文章作成に必要な時事問題の知識も蓄積する。この際、当然ながら時事問題の分析手法も検証する。

これらを踏まえ、文章力養成では、参加者に論説記事、一般記事、作文、エッセイ、論文などを実際に書いてもらい、その結果を元に議論を進める。参加者の文章作成時での指導・添削などは、教員だけが行うのではなく、熟練ジャーナリストなどの招聘を視野に入れ、多角的な視点からの指導を行う。

本演習の目的は「記事構成論」をもとに、あくまで「達意」を目的とする文章の書き方を学ぶもので、ジャーナリスト希望者だけが対象ではない。参加者はある程度語学の知識があることが望ましいほか、新聞を最低一紙とることを勧める。

### 授業の進行予定

#### テーマ1. 演習概要

前半は各種の記事分析と「記事構成論」の理解、後半は文章作成力の養成の実践の場とすることなど、参加者に演習の大まかな進め方を理解してもらう。

#### テーマ2. 記事構成論①

参加者にある日の新聞を購入してもらい、それを教材に、政治、外信、経済、オピニオン、社会など各面における記事の書き方の違いを分析する。また新聞と他のメディア(例えば雑誌やテレビ)との記事の違いも考え、最終的には、参加者に新聞の各面ごとの記事の書き方を実際に体験してもらう。

#### テーマ3. 記事構成論②

日本の新聞と、国外(主に欧米)の新聞の記事の書き方の違いを具体的に分析。読者に「いかにニュースを伝えるか」について、内外の新聞の手法の違いを実際に見る。このうえで例えば「ル・モンド」の論説委員になった場合と、「毎日新聞」の論説委員になった場合を考え、それぞれの立場で、それぞれの文章のスタイルを元に記事を書いてもらう。

#### テーマ4. 時事問題分析

教員がテーマとして与える時事問題について、発表者がその問題を多角的に分析する。その上でそれぞれの時事問題について、「論説」を書くことを試みる。参加者にも自ら新聞などを継続的に読んでもらい、興味のある時事問題を多数、抽出・発表することを求めていく。

#### テーマ5. 作文論①

作文・エッセイ、さらに論説などを書く上での基本の1つは、あるテーマを与えられた際、いわゆる「起承転結」をどう展開し、読み手にわかり易く自分の考えを伝えていくかにある。その基本を、実際に文章を書いてもらい、学んでいく。

#### テーマ6. 作文論②

あるテーマを与えられた時に、いかに自分の経験をもとに、自分という人間を相手にわからせるか。そしていかに相手の共感を得るか。それらは作文・エッセイを書く上での醍醐味であるとともに、最も難しいタスクの一つだ。いわゆる「自分史」を再度、分析したうえで、「自分の面白さ」をいかに相手に伝えるかを考えるとともに、実践的な作文・エッセイの書き方を学ぶ。

#### テーマ7. いわゆる「論文」論

就職試験など、一般社会では「作文」ではなく「論文」を求められる場合もある。だがそれは学術的な「論文」ではない。一般社会で求められる「論文」とは何か。そして「作文」との違いは何かなどを、具体例に即し解説。実際に「論文」の作成も試みる。

### 単位取得要件

本演習は文章力養成が目的であるため、参加者は特段の事情がない限り、毎回出席することが求められる。また評価は、参加者がほぼ毎回提出することになる様々の原稿を元に行う。

### 教材等

教材は主に日本の新聞記事。随時、英語圏、フランス語圏などで発行される高級紙の記事も併用する。(演習時に配布)。

### オフィスアワー

教員とアポイントメントを取ること 人文社会学研究棟A724

### 学生への要望

ある程度の語学の素養があることが望ましい。

## BB11781 情報文化概論I

1.5単位 1・2年次 春ABC水1

仲田誠

### 授業概要

マス・コミュニケーション理論の基礎について学習する。大衆文化論もとりあげる。様々なメディアにどのような価値観や意味が表現されているか、「物語論」や想像力、メディア産業論の視点から考える。

備考 AC30261, AC50751と同一。情報文化概論A(AC30131ないしBB11421)の単位取得者は履修できない。

授業形態 講義

### 授業の到達目標及びテーマ

マス・コミュニケーション理論の基礎について学習する。大衆文化論についてもとりあげる。ビデオ資料なども使用して多方向から学習をすすめる。CM, 映画, 漫画, 音楽などもとりあげ、そこにどのような価値観や意味が表現されているか、「物語論」や想像力、メディア産業論の視点から考える。

情報文化概論Iでは、メディア研究・情報社会論の基礎を学ぶと同時に、「想像力」、「物語論」、「存在論的フレーム」という従来のメディア論・情報社会論では欠けていた議論、視点について補足し、メディアや情報通信技術の影響力を根源的な部分から問い直す。具体的には、以下のようなアポリア・問題を考えながら、メディア・情報通信技術の影響力について深層の部分から考える。1) テレビや映画のロケ地へ行って、ドラマや映画の登場人物がした行動をそのまま真似したくなる気持ち(ハンカチをプラットホームの手摺りに結びつけるなど)。2) 映画やテレビドラマの登場人物が虚構の存在でしかないとわかっている、彼らが死んだり挫折したりすると、自分も深い喪失感を感じることもある。3) CMがCMであり、それが宣伝であるとわかっている、CMのおとぎ話に影響されて商品を買ってしまう。4) 自分が直接体験したことを、ブログであらためて表現し直し、自分を他者の目で見ないと気が済まない「間接体験化」への衝動。5) 携帯電話で親しい人と話したり、深夜に長電話したりしている時に、もう一人の自分が自分の行為を傍らで見守っているように感じることもある。こうした問題・現象は、「事実」や「客観的真理」を重視する科学的図式や、「象徴的意味の世界を事物的因果論でおきかえる存在者(死んだ事物)の視点(ハイデガー)」では説明できないものである。従来のメディア・情報研究において欠けていた「想像力」、「物語論」、「解釈学・存在論的フレーム」という視点が必要とされるのである。細かい授業内容は、以下のような題材をとりあげる予定。～「ERのイメージ」、「湾岸戦争の意味」、「ニュースと想像力」、「映画やドラマで話題になった場所へ行ってみたいくなる心理」、「物語的想像力とCM、歌、マンガ」、「統合失調症・失認症患者と想像力の喪失」。前期の授業の中でとりあげる「想像力」の問題は、情報文化概論Bの主要なテーマである情報社会論の問題について考える上でも重要な視点である。授業内容:ビデオを見たり、調査データを紹介したり、文献の内容を紹介したりして、さまざまな方向から学習する。可能なら、メディアやメディア文化について簡単な調査(「なぜ若者はCDを買うか」、「メディアが提示する若者像と現実の若者像のズレ」、「価値観とメディア評価」、「歌や歌手の意味」など)を行いたい。一昨年実施した調査ではポピュラーソングと人々の価値観との関連などについて非常に興味深いデータが得られた。概論なので、履修者にはデータの収集アンケートに答えてもらう等に協力してもらって、データの分析は授業担当者(仲田)が行う。毎回なんらかのかたちで、映画やビデオを見る予定である。講義をきき、映画を見、データをながめ、全ての感覚や感性・知性を動員しながら問題を考える。

教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房

キーワード

現代におけるマス・メディア論とメディア文化論さらに情報社会論

授業計画

評価方法・基準

試験・出席・レポート等による総合評価

参考文献

以下のテキスト(仲田誠)を使用するので各自入手しておいてください。

教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房

オフィスアワー

その他

## BB11791 情報文化概論II

1.5単位 1・2年次 秋ABC水1

仲田誠

### 授業概要

情報社会論の問題をとりあげる。人工知能やロボット研究、プライバシーとSNS、日本的価値観・人間観とIT利用、情報社会における自分さがしの問題、ミラーニューロン、災害と情報等をとりあげる。

備考 AC30271, AC50761と同一。情報文化概論B(AC30141ないしBB11431)の単位取得者は履修できない。

授業形態 講義

### 授業の到達目標及びテーマ

情報社会論の背後にある世界観、人生観についてとりあげ、多メディア社会・情報社会の中で私たちがどのように生きていくべきか考える。あわせて、日本的価値観、社会観、人生観についてとりあげ、情報化と日本的価値観の関係について考えながら、今後日本社会の進むべき方向について考える。

<1>情報文化概論IIでは、情報文化概論Iの内容を踏まえつつ、多メディア社会・情報社会でどのような意味やメディア・情報社会に関する言説、コミュニケーションの内容が創造(社会的に言う「構築」)されてきたのかいくつかの異なる視点から複合的に考える。具体的には次のような問題がとりあげられる。

1)科学的・技術的視点。「情報」という概念や「情報社会」に関するさまざまな言説が、「技術決定論・還元論的世界観」によってどのように作りだされてきたか。「アメリカの社会科学(ベルなど)」、「歴史・政治・経済的状況(冷戦構造など)」がこれとどう連動してきたのか。モダンとポストモダンの競合・妥協。情報社会に関する言説では、たとえば、「理想的な個人の生き方」に関しても、「合理的、自律的、中心がある、安定している」個人像を重視するモダンの図式と「主体の再構築、文化的多様性(生き方の多様性、安定性より差異)、脱合理性」を重視するポストモダン型図式が競合している。映画という「モダン」なメディアが「存在論的視点」(たとえば、文学などの「表現形式」は、人間の直接的経験を間接的で「遠いもの」にし、それがかえって人間の意識の深さを生みだすというガダマーの視点)と深く関わりながら、どのように、人間や社会、世界に関する意味を創造してきたのか。その点を、とくに、日本映画をとりあげながら考える。戦中、戦後の日本映画の主要なモチーフである「苦しみや悲しみを共有する私たち」という視点が、インターネットのバーチャルな世界の中にも持ち込まれているという問題についても考える。<2>後半は、1で学んだことをもとに、「情報社会論」がどのような時代背景・思想・価値観によって構築されたかを確認しながら、「想像力」、「物語論」、「物語(ブログでの自分語り、日本的世間意識などを含む)を通じての意味の共有」という観点からメディア社会・情報社会を新たに読み解いていく。物語は想像力と関係し、知性をもっていても、心や感情をもたない人工知能には(物語は)解読不可能である。この点から、情報社会の矛盾や可能性に深く入りこんでいく。<3>以上に引き続き次の内容をとりあげる。情報社会におけるプライバシーの問題や、人間関係(ブログやSNSを通じての人間関係)の問題を、日本や中国などのアジアと欧米諸国との間での情報倫理の考え方の違いと関連させながらとらえ、情報社会における倫理やモラルの問題について理解していく。この問題は、「人と人のつながり」がどのようなイメージ、「物語」によって可能になっているかという問題とも深く関わるということを考えていく。また、近年欧米で研究がさかんになっている「ロボット倫理」の問題もとりあげる。ロボットに老人の介護をさせたり、幼児の世話をさせたりすることは、倫理的・モラル的にどのような意味をもつのか考える。授業では、ほぼ毎回、ビデオや映像資料などを授業で使用する予定である。教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房

キーワード

授業計画

<予定している講義スケジュール(一部の内容は情報文化概論Iでもとりあげる)>

1. 「世界には想像力やイメージを通じてしか見えない意味がある」といことについて考える。認知科学や精神医学の知見をとりあげながら、メディアにおける想像力の問題について理解する。
2. 「メディアは「物語」や「表現」を通じてこの意味を見えるようにし、また新しい意味をつくりだす」ということを精神医学や哲学、社会学、心理学の考え方を紹介しながら理解する。
3. 「このような「物語」や「表現」を通じてつかむことができる意味は科学や論理学で考えるような意味とは違う」ということを映画、CM、ドラマにおける「物語」や「表現」の特徴を紹介しながら勉強する。
4. 「人間の知恵には、科学的な知恵と物語的な知恵の両方がある」ということを、情報社会における「情報」の考え方や人工知能に関する議論を紹介しながら説明する。
5. 「メディアは物語的な意味を通じて、人生に大切なもの、「生きる意味」とか「他人との関わり」とか、「社会の中でのルール」とかを私たちに教えている」ということを理解する。
6. 「情報社会論」の基礎を学ぶ。
7. 「情報社会論」が私たちに特定の価値観を教えるものであることを理解する。この価値観とは、「知能とは明確なルールに従うことである」という考え方や、「個人の自由な競争が社会や市場を発展させる」という考え方と結びつくものである。
8. ブログやSNSを経由しての自己表現やコミュニケーションのありかたについて学び、そうしたものの背後にある価値観について考える。自分のことを自分で理解するためには、日記などの「自己表現」の手段が必要であることなどを学ぶ。
9. ブログやSNSにおける様々なルールについて学ぶ。ルールとは人間がつくりだすものであるが、一度ルールをつくると、このルールが人間を逆に支配するようになることをSNSやゲームなどを例にあげながら考える。
10. 「物語」のルール、「表現」のルール、ブログやSNSのルールの共通点、相違点について考える。
11. 日本的な人間関係のルールと情報社会におけるコミュニケーション、情報倫理のありかたとの関連性について考える。
12. 日本と中国における人間関係のルールの共通点、相違点(面子など)について考える。
13. 12で考えたことをもとに情報社会の倫理について考える。プライバシー観の違いについて考える。存在論という視点から情報社会の倫理について考える。

今年度は昨年度と同様に、人工知能論、ロボット研究、ロボット倫理研究の最新の知見(知能や行動様式の創発など)を紹介し、新たな情報社会研究の創発、日本社会の変革(あたらな知恵、組織、文化、価値の創発)の可能性について考えていく。また、東北・北関東での地震被害、福島での原発事故といった状況を受け、担当教員が過去におこなった災害観研究、原子力利用意識調査の知見についても紹介する。

評価方法・基準

試験・出席等による総合評価

参考文献

以下のテキスト(仲田誠)を使用するので各自入手しておいてください。  
教科書:『メディアと異界』、仲田誠、砂書房

オフィスアワー

その他

## BB11811 スポーツ社会学

2.0単位 1年次 秋AB月4・火3

松村和則<月4限>、清水諭<火3限>

### 授業概要

備考 社会教育主事、体育(W82 0501、W870041)と共通

授業形態 講義

### 授業の目標と概要

松村:「大衆消費社会」の中でスポーツが肥大化していく過程を踏まえ、スポーツの世界を社会的に考察する。とくに、メディアに創り上げられたスポーツの現在の姿とともに、農山村では環境問題まで引き起こす巨大な「力」を得てしまった背景を考える。

清水:【目標】スポーツイベントとそれを取り巻くシステムの歴史を学びながら、身体の文化政治(人種、民族、ジェンダー、ナショナリティ、暴力など)のありようを理解する。【概要】甲子園野球、オリンピック、FIFAワールドカップなどのスポーツイベントとメディア、テクノロジー、グローバル資本企業の戦略、および消費社会の進展との関係性を学ぶ。

### 授業の進行予定

松村:1.スポーツを定義する。様々な社会理論からスポーツを解説する。2.スポーツと社会化 3.スポーツにおける「逸脱」 4.社会階層とスポーツ 5.商業化するスポーツ 6.メディアとスポーツ 7.スポーツと政治 8.農山村の開発とスポーツ(1) 9.戦後地域開発とスポーツ 10.まとめ

清水:1.箱根駅伝をどのように読み解くか? 2.テレビとスポーツの物語:甲子園野球 3.スポーツのビジネス化とメディアとしての身体 4.60'sアメリカと人種問題:'68メキシコとアリ 5.スポーツの東京:'40-'64-'16の都市と国家 6.沖縄と変容する東京:'64-772-'87-現在 7.女性アスリートの表象と歴史:'28アムステルダムの人見絹枝 8.まとめ:スポーツ・メディア・身体を問い直す

### 単位取得要件

出席の要件を満たし、試験で60点以上を得点すること。

### 授業外の予習復習方法

清水:スポーツの文化は身の回りに様々な形で現れています。事後学習として、学習した内容を具体的なスポーツや身体をめぐる事例をもとに考え、レポートの提出に備えてください。

### 教材等

テキスト(松村): J. Coakley & P. Donnelly(前田和司・大沼義彦・松村和則編訳)『現代スポーツの社会学』南窓社 2011年

(清水): 清水諭(編)『オリンピック・スタディーズ:複数の経験・複数の政治』せりか書房 2004年

参考書(松村): 松村和則編著『【増訂版】メガ・スポーツイベントの社会学』南窓社 2007年

井上俊・亀山佳明編『スポーツ文化を学ぶ人のために』世界思想社 1999年

松村和則 編著 『山村の開発と環境保全ーレジャー・スポーツ化する中山間地域の課題ー』南窓社 1997年

P・ブルデュー『社会学の社会学』藤原書店 1991年

多木浩二 『スポーツを考える』ちくま新書 1996年

オフィスアワー

松村:体育系棟B609

清水:体育系棟B611 月曜15時～17時

学生への要望



# BB11932 社会学研究法I

1.0単位 2・3年次 春AB水6

五十嵐泰正, 樽川典子

## 授業概要

社会学主専攻で卒論執筆予定の学生に対し、社会学的探究を進める上で必要となる社会調査に関する基礎知識の習得を目指す。

## 授業形態 演習

## 授業の目標と概要

私たちは、実証研究の文献によってさまざまな社会的事実を知る。ただし、それらは研究の最終的な果実にすぎず、そこにいたるまでには、諸段階の作業を必要とする。この授業では、その諸段階について具体的な知識と技術を習得することをめざし、社会調査実習の履修にそなえる、あるいはゼミ論文や卒業論文の執筆に必要なデータ収集・分析方法の基礎を習得する準備をおこなう。

## 授業の進行予定

前半の質的調査編を樽川(第1～5週)、後半の数量調査編を五十嵐(第6～10週)が担当する。

- 第1回 社会調査の情報源と研究倫理
- 第2回 インタビュー調査の設計と質問項目の準備
- 第3回 インタビュー調査の実際
- 第4回 資料の整理とコーディング
- 第5回 分析の方向・コード・マトリックスの作成
- 第6回 数量調査の基本的な考え方
- 第7回 質問紙の設計1:全体の設計と質問文の作成
- 第8回 質問紙の設計2:選択肢の作成
- 第9回 データの集計と分析の基礎:クロス集計と検定
- 第10回 全体のまとめ:質的調査と数量調査の関係の再考

## 単位取得要件

授業への出席、授業内小課題、ならびに期末試験をもって評価の対象とする。

具体的には、前半の小課題を30%、後半の小課題を30%、期末試験を40%の配点とする。

## 授業外の予習復習方法

## 教材等

1. 小林修一、久保田滋、西野理子、西澤晃彦『テキスト社会調査』梓出版社、2005年
2. 佐藤郁也『質的データ分析法』新曜社、2008年

## オフィスアワー

水曜5限

## 学生への要望

## BB11942 社会学研究法II

1.0単位 2・3年次 秋AB水4

奥山敏雄, 葛山泰央

### 授業概要

社会学主専攻で卒論執筆予定の学生に対し、社会学的探究を進める上で必要となる社会学的文献の選び方・読み方の習得を目指す。

### 授業形態 演習

### 授業の目標と概要

社会学主専攻で卒論執筆予定の学生に対し、社会学的探究を進める上で必要となる社会学的文献の選び方・読み方の習得を目指す。

### 授業の進行予定

この授業では最初に、『リーディングス 日本の社会学』（東京大学出版会）や『社会学文献事典』（弘文堂）等を手掛かりに、卒業論文の執筆を念頭に置いた社会学的文献の選び方について講義する。続いて、社会学的探究を進める上で必要となる社会学的文献の読み方（社会学的リテラシー）について、具体的な文献の講読を通して習得する。なお講読する文献としては、浅野智彦（著）『自己への物語論的接近』（勁草書房）、野口裕二（著）『ナラティヴの臨床社会学』（勁草書房）、小池靖（著）『セラピー文化の社会学』（勁草書房）ほかを予定している。最後に、具体的な文献の講読を通して培われた各自の問題関心や問題意識に従い、小論文の執筆を目指す。

### 単位取得要件

毎回の出席とレポート作成、報告と討論、小論文作成等による総合評価

### 授業外の予習復習方法

### オフィスアワー

奥山: 人社棟A410 木曜3時限

葛山: 人社棟A413 月曜5時限

### 学生への要望

このテーマについての参考文献として、若林幹夫（著）『社会（学）を読む』（弘文堂 現代社会学ライブラリー 2012年10月）を挙げておくので、開講までに熟読しておくこと。

## BB11952 社会学研究法III

1.0単位 2・3年次 秋AB水6

土井隆義, 野上元

### 授業概要

社会学主専攻で卒論執筆予定の学生に対し、社会学的探究を進める上で必要となる社会学的記述のための諸技術の習得を目指す。

### 授業形態 演習

### 授業の目標と概要

卒業論文およびレポートの執筆に必要な知識と技能を修得することを目標とします。具体的には、学生同士のディスカッションなども取り入れ、論文はなぜ、どのように書けばよいのか、構成の仕方、パラグラフライティングや執筆の手順、構成の仕方などを学びながら、各自の関心に基づいて実際に執筆をし、添削をすることなどを通じて、アカデミックライティングの諸技術を実践的に身につけることを目指します。

### 授業の進行予定

野上が前半を担当し、土井が後半を担当します。

- (1) 論文とは何か?どのように取り組まれるべきか?を考える。
- (2) 論文執筆の全体像や実例を知る。
- (3) 他人の論文を読み、批評し合う。
- (4) 他者の意見を取り入れながら論文の推敲をする。

### 単位取得要件

授業におけるディスカッションへの参加と課題の提出を総合的に評価します。

### 授業外の予習復習方法

課題の提出が必須となるので、授業の前後で執筆案や小論文の作成が求められます。

### 教材等

参考文献として以下を挙げておきます。

1. 岩崎美紀子『「知」の方法論—論文トレーニング』(岩波テキストブックスα)
  2. ハワード・ベッカー『論文の技法』(講談社学術文庫)
  3. 本多勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)
  4. 藤田真文『メディアの卒論』ミネルヴァ書房
- その他は授業中に適宜紹介します。

### オフィスアワー

### 学生への要望

学生相互に文章を批判し合うので、精神的なタフさが必要となります。自分の書いた文章や論文を愛せるようになること、「作品」となるような文章が書けることを目指しましょう。

# BB11962 社会学外書講読I

1.0単位 2・3年次 春AB月4

葛山泰央

## 授業概要

〈知識の社会史〉をテーマに、グーテンベルグによる活版印刷術の発明からデイドロによる『百科全書』の編纂に至るまでの歴史を主題化した知識社会学の基本文献を講読する。

## 備考

## 授業形態

演習

## 授業の目標と概要

〈知識の社会史〉をテーマに、グーテンベルグによる活版印刷術の発明からデイドロによる『百科全書』の編纂に至るまでの歴史を主題化した知識社会学の基本文献を講読する。

## 授業の進行予定

第1回 Sociologies and Histories of Knowledge: An Introduction

第2回 Professing Knowledge: The European Clerisy 第3回 Establishing Knowledge: Institutions Old and New 第4回 Locating Knowledge: Centres and Peripheries

第5回 Classifying Knowledge: Curricula, Libraries and Encyclopaedias [以上春A学期]

第6回 Controlling Knowledge: Churches and States

第7回 Selling Knowledge: The Market and Press 第8回 Acquiring Knowledge: The Reader's Share 第9回 Trusting and Distrusting Knowledge: A Coda 第10回 予備日 [以上春B学期]

## 単位取得要件

毎回の出席ならびにレポート作成、報告と討論、期末レポート等による総合評価

## 教材等

授業では下記の文献を教科書として講読を行うので、授業開始時までに各自で用意しておくこと。

Peter Burke (2000) *A Social History of Knowledge: From Gutenberg to Diderot* (Polity).

## オフィスアワー

人社棟A413 月曜5時限

## 学生への要望

## BB11972 社会学外書講読II

1.0単位 2・3年次 秋AB月4

葛山泰央

### 授業概要

〈知識の社会史〉をテーマに、デイドロによる『百科全書』の編纂からウィキペディアの台頭に至るまでの歴史を主題化した知識社会学の基本文献を講読する。

### 備考

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

〈知識の社会史〉をテーマに、デイドロによる『百科全書』の編纂からウィキペディアの台頭に至るまでの歴史を主題化した知識社会学の基本文献を講読する。

### 授業の進行予定

第1回 Introduction

第2回 (Part I : Knowledge Practices) Gathering Knowledges 第3回 Analysing Knowledges

第4回 Disseminating Knowledges 第5回 Employing Knowledges [以上秋A学期]

第6回 (Part II : The Price of Progress) Losing Knowledges

第7回 Dividing Knowledges 第8回 (Part III : A Social History in Three Dimensions) Geographies of Knowledge

第9回 Sociologies of Knowledge 第10回 Chronologies of Knowledge [以上秋B学期]

### 単位取得要件

毎回の出席ならびにレポート作成、報告と討論、期末レポート等による総合評価

### 教材等

授業では下記の文献を教科書として講読を行うので、授業開始時までに各自で用意しておくこと。

Peter Burke (2012) *A Social History of Knowledge II: From the ENCYCLOPEDIA to WIKIPEDIA (Polity)*.

### オフィスアワー

人社棟A413 月曜5時限

### 学生への要望

## BB11992 卒業論文演習

3.0単位 4年次 通年集中

社会学主専攻全教員

### 授業概要

卒業論文執筆のための演習形式の指導を行う。

### 備考

「卒業論文」と併せて履修すること。平成22年度以降の入学者は「卒業論文演習」BB11997を選択すること。主専攻必修科目

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。(平成22年度以降の入学者は、本科目ではなく「卒業論文演習」BB11997を履修すること)

### 授業の進行予定

社会学主専攻の学生は、卒業論文に関連するスケジュールを随時確認しておくこと。

### 単位取得要件

必ず「卒業論文」(BB11998)と併せて履修すること。

### 授業外の予習復習方法

### 教材等

### オフィスアワー

### 学生への要望

## BB11997 卒業論文演習

4.0単位 4年次 通年集中

社会学主専攻全教員

### 授業概要

卒業論文執筆のための演習形式の指導を行う。

備考 「卒業論文」と併せて履修すること。平成21年度以前の入学者は、「卒業論文演習」BB11992を選択すること。主専攻必修科目

授業形態 講義、演習及び実習・実験・実技

### 授業の目標と概要

担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。質の高い卒業論文を仕上げるために必要な諸技術を習得することを目指す。(平成21年度以前の入学者は、本科目ではなく「卒業論文演習」BB11992)を履修すること)

### 授業の進行予定

社会学主専攻の学生は、卒業論文に関連するスケジュールを随時確認しておくこと。本演習は4年次履修科目だが、以下に3年次からのスケジュールを示す。

- 1) 【3年次11月あたま】 「卒論中間報告会」の傍聴(4年生が報告する卒業論文の中間発表を聞きながら、卒論についてのイメージを固めること)
- 2) 【3年次11月末】 「卒業論文仮題目届」の提出(指導を希望する教員と提出1~2週間前に面談し、指導方針などを聞いておくこと)
- 3) 【4年次4月中旬】 「卒業論文の手引き」配布(卒論の執筆要項。人社棟A421)
- 4) 【4年次5月最終週】 「卒論題目届」の提出
- 5) 【4年次11月あたま】 「卒論中間報告会」での発表(一人10~15分のプレゼンを行う)
- 6) 【4年次1月下旬】 卒論提出(締切厳守)

演習の予定や形式に関しては、各教員によく聞いておくこと。

### 単位取得要件

卒論中間報告会で発表することが求められる。日時や場所などの詳細は後日掲示する。必ず「卒業論文」(BB11998)と併せて履修すること。

### 授業外の予習復習方法

### 学生への要望

3年次の仮題目提出直前になって卒論のことを考え始めても遅い。主専攻を社会学に選択したときから常に卒論のことを考え、自分なりの問題意識を持って講義や演習・実習を選択して取り組まなければ完成度の高い論文は作成不可能である。指導教員はあくまでも相談相手・伴走者であり、書くのは学生自身である。準備作業・執筆作業にあたっては、何よりも主体的な態度や意識が求められる。4年次の生活の柱として、卒論を位置づける必要がある。

## BB11998 卒業論文

6.0単位 4年次 通年集中

社会学主専攻全教員

### 授業概要

卒業論文執筆のための指導を行う。

### 備考

「卒業論文演習」と併せて履修すること。主専攻必修科目

### 授業形態

卒業論文・卒業研究等

### 授業の目標と概要

担当教員の指導を受けながら、卒業論文を執筆する。当然のことながら、質の高い卒業論文を書き、これを合格させなければ、卒業することはできない。

### 授業の進行予定

### 単位取得要件

必ず「卒業論文演習(平成22年度以降入学者用)BB11997」、「卒業論文演習BB11992」(平成21年度以前の入学者)と併せて履修すること。

### 授業外の予習復習方法

### 教材等

### オフィスアワー

### 学生への要望



## BB16132 社会学演習I(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB火6 通年集中

野上元

### 授業概要

このゼミでは、我々のいる現代社会を歴史的視点から浮かび上がらせることを目指している。社会史や思想史、文化史やメディア史を交錯させて検討しつつ、その時代をどう表象し記憶しているかも含めて立体的に考察する。

### 備考

延長または休日・休業中等に補講を行う。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

今年度のゼミでは、現代社会における「新しさと旧さ」について考えたい。具体的には、『フラット・カルチャー-現代日本の社会学』に収録されている現代の様々な文化現象・社会現象を題材に、「フラットさ」のなかに「歴史」の奥行きを探る作業を進めてゆく。このことを通じて、それぞれの「社会学的想像力」を豊かにすることを旨とする。

### 授業の進行予定

編者による「序章」および各部の「イントロダクション」、北田暁大による「フラット『化』の語り方」、佐藤俊樹による「社会学『社会学』」の各章をまず全員で読み、関連する文献を検討する。その後、各自の関心に応じて各章をそれぞれ報告して貰う。それ以降は各自テーマを決め、各自の調査や分析を踏まえ、それぞれの文化現象・社会現象における「フラット化とそこに至る歴史」について報告して貰う予定。

### 単位取得要件

各自の興味関心が全てなので、やる気のない参加者には単位を与えない。年度末にはゼミ論を提出することが求められる。

### 授業外の予習復習方法

「歴史の奥行き」については、野上が担当する「歴史社会学」の講義を選択することが望ましい。文献リストを配布するので、各自でその領域についての簡単な知識や研究法を学んでおく必要がある。レジュメの作成方法などはTAに相談すること。

### 教材等

参加予定者は各自で遠藤知己編『フラット・カルチャー-現代日本の社会学』(せりか書房、2800円)を購入しておくこと。

### オフィスアワー

### 学生への要望

適宜、時間延長および学外での巡検・見学等を行う予定。

## BB16232 社会学演習II(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB木6 通年集中

奥山敏雄

### 授業概要

病いをかかえて生きること、死にむかって生きること、そこから照らし出される生きることの意味について社会学的に考える。

### 備考

延長または休日・休業中等に補講を行う。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

生きることの意味といっても多様なものがあるし、時代や社会によっても異なる。演習では現代社会においてなぜ意味が過剰に求められるのか、病いや死への直面がどのような意味への問いを引き起こすのか、そこで求められる意味の位相にはどのようなものがあるのか、これらの点について考えたい

### 授業の進行予定

春学期には演習全体のテーマに関する文献を購読し、夏休みにこのテーマに関係づけて参加者各人が自分の問題関心にそって個別のテーマを設定してレポートを作成し、秋学期にレポートの報告と討論をつうじて年度末のゼミ論を作成する。

### 単位取得要件

70%以上の回数出席、報告と討論、夏休みのレポート、ゼミ論を総合的に評価する

### 授業外の予習復習方法

共通に購読する文献をあらかじめ熟読する。共通文献に関連する文献を読むことをつうじて、各自の関心を社会学的な問題設定へと具体化する作業をする。

### 教材等

共通に購読する文献は参加者の関心にそって決める

### オフィスアワー

面談の場合には、事前にメールで日時の約束が必要

### 学生への要望

## BB16332 社会学演習III(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB月6 通年集中

葛山泰央

### 授業概要

〈構造主義以後〉の社会学的課題をテーマに、文献や関連するテキストの読解と検討を通して、言説分析や権力分析の可能性について探究する。なお、このテーマについての参考文献として、内田隆三(著)「〈構造主義以後〉の社会学的課題」(『思想』676号)を挙げておくので、開講までに熟読しておくこと。

備考 延長または休日・休業中等に補講を行う。

授業形態 演習

### 授業の目標と概要

【授業目標】この授業では、言葉と物の織り成す「秩序」としての〈文書館(アルシーヴ)〉が提起する様々な問題を、文献や事例から多角的に検討することを目的とする。

文書館とは何か。図書館が一般の書籍類をも含む、各種の出版刊行物を所蔵する施設を指すならば、文書館とは、行政文書や事務文書の収集・保存・公開を目的とする施設を指している。前者が知の輝かしい集蔵庫であるならば、後者は知の痕跡や残骸からなる薄暗い集蔵庫であると言えるだろう。

とはいえ、その薄暗さが解き放つ独特の魅力もまた存在する。ミシェル・フーコー(Michel Foucault 1926-1984)は、知の言説実践を批判的に解読する装置としての〈集蔵体＝文書館〉の機能に着目し、それを〈考古学的＝文書学的〉歴史記述の可能性の条件に据えた。狂気の歴史や臨床医学の歴史や人間諸科学の歴史、さらには監獄の歴史やセクシュアリテの歴史を巡るその一連の仕事は、私たちの〈文書館〉を記述すること、私たちの知の余白をなす、あの灰色の領域を探查することから生み出された。この意味での〈文書館〉を、歴史社会学の方法概念として捉え返し、「汚辱に塗れた人々の生」のような未完の仕事に秘められた潜在力を引き出す一方で、学問の歴史や図書館の歴史、百科事典の歴史や各種の辞典類の歴史といった仕事を構想することもできるだろう。それはまた、書誌学や図書館学、書物の社会史や読書の社会史などの成果を踏まえつつ、知と身体と言語の交錯する〈文書空間〉の歴史社会学とも呼ぶべき問題領域を切り拓く作業にも繋がるはずである。

### 授業の進行予定

【授業内容】文献の講読や関連する事例についての報告と討論を中心に進めたい。

### 単位取得要件

### 授業外の予習復習方法

### 教材等

ミシェル・フーコー(著)『監視することと処罰すること——監獄の誕生』(日本語訳は新潮社から)ほか

### オフィスアワー

人社棟A413 月曜5時限

### 学生への要望

## BB16432 社会学演習IV(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB月6 通年集中

五十嵐泰正

### 授業概要

新規就農、産消連携、6次産業化など、現代の農業をめぐる諸課題について、おもに千葉県柏市における近郊農業の事例調査を交えながら、実践的に考える。休日や長期休み中に、フィールドワークを行うことがあるので、積極的に参加してほしい。

備考 延長または休日・休業中等に補講を行う。次年度の「社会調査実習」と連動した科目になるため、2年間続けての履修が望ましい。

授業形態 演習

### 授業の目標と概要

新規就農、産消連携、6次産業化など、現代の農業をめぐる諸課題について、おもに千葉県柏市における近郊農業の事例調査を交えながら、実践的に考える。

### 授業の進行予定

現在、離農者や耕作放棄地の拡大、食品安全の問題、そして更なる自由貿易化の波など、農業をめぐる環境には大きな問題が山積している。そうしたなか本演習では、構造的な高コスト体質を抱えながらも、一定の存在感をもって成立している都市近郊農業にスポットをあて、理論的・経験的に検討していく。本演習で設定する具体的な調査対象は、千葉県柏市近辺の「農」をめぐる諸実践である。2年間にわたって行われる調査プロジェクトの初年度にあたる本年度は、まず1学期の最初に、原発事故以降ホットスポットとなった柏市において、協働的なジモト野菜の信頼回復プロジェクトを記録したテキストの輪読に始まり、柏近郊の農業を取り巻く構造や課題についての把握を目指す。そのうえで、若者の新規就農、消費者と生産者の関係形成、食品安全、ブランディングや6次産業化など、各自の興味のあるテーマを出しあっていくつかの調査班をつくってゆく。1学期の後半から2学期の前半にかけては、各班ごとのテーマに関連する文献を輪読し、それぞれの背景にある構造的・政策的課題について整理する。それと並行して、柏市近辺でそれぞれのテーマにかかわる形で活動している、生産者や流通業者(直売所、スーパー)、それらをつなぐ市民団体などの聞き取り調査を行い、各テーマを柏というローカルな場に根付いた形でじっくりと考えてゆく。最後に2学期の後半には、1年間に得た知見を併せてゼミ論文を執筆し、来年度の本格的な調査に向けてさらなるプロポーザルを練り上げてゆく。

単位取得要件 授業への貢献度と、ゼミ論文(12000字程度)から総合的に評価する。

授業外の予習復習方法

教材等

1. 五十嵐泰正+「安全・安心の柏産柏消」円卓会議『みんなで決めた「安心」のかたち』亜紀書房、2012年

オフィスアワー メール等にて随時アポイントメントをとること。

## 学生への要望

本演習のプロジェクトは、来年度の「社会調査実習II」に継承する予定なので、来年度も併せて履修する意気込みのある学生を歓迎したい(もちろん必須の要件ではない)。週末や長期休暇の間に、柏市近辺でのフィールドワークが行われることがある。

## BB16532 社会学演習V(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB火6 通年集中

黄順姫

### 授業概要

現代日本の大衆文化を政府の「クール・ジャパン」文化政策、文化産業・コンテンツ、大衆文化空間、文化の担い手の領域から考察し分析を行う。ゼミでは1戦後から今日に至るまでの大衆文化現象、文化政策について文献購読を行う。2各自が漫画、アニメ、ゲーム、ドラマ、映画、J-popなど好きなジャンルを選択し、考察・発表する。3秋葉原、原宿、渋谷など遊び空間のフィールドワークをしてゼミ論を作成する。

### 備考

延長または休日・休業中等に補講を行う。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

現代日本の大衆文化を政府の「クール・ジャパン」文化政策、文化産業・コンテンツ、大衆文化空間、文化の担い手の領域から考察し分析を行う。グローバル化のなかで、文化はどのように身体化され、新たに再構築していくのか。さらに、海外において日本の大衆文化がどのように現地に土着化していたのかを分析する。このような過程を通して、現代文化の分析力を涵養する。

### 授業の進行予定

1身体文化についての社会学的文献を購読する。2道具概念を取り入れ、個人の文化的実践、社会的構造を考察する。3戦後から今日に至るまでの大衆文化現象、文化政策について調べる。4日本の大衆文化の海外での消費について調べる。5各自が漫画、アニメ、ゲーム、ドラマ、映画、J-popなど好きなジャンルを選択し、考察・発表する。

### 単位取得要件

ゼミに積極的に参加し、文献講読及びテーマの発表・討論を行う。

### 授業外の予習復習方法

自主的にテーマを選び、授業以外でも、資料を収集したり、テーマに関わる文化空間に行って観察してみる。

### 教材等

黄順姫『同窓会の社会学』世界思想社2007年。

黄順姫「身体文化と象徴的暴力—文化戦略としての化粧」、日本スポーツ社会学会編『変容する現代社会とスポーツ』世界思想社、1998年。

黄順姫「新韓流の文化社会学—韓国大衆文化の日本的遊びの構造と実践」『社会学ジャーナル』37号、2012年、1-20頁。

A. D. キング編 山中弘・安藤充・保呂篤『文化とグローバル化』山中弘・安藤充・保呂篤、埼玉大学出版部、1999年。

上野征洋編『文化政策を学ぶ人のために』世界思想社、2002年。

オフィスアワー

金曜日の5時限

学生への要望

単位をとるための勉強ではなく、自らが学問への好奇心を持って、楽しく、考察、分析していくことで、結果的に社会学的な洞察力が身体化することを望む。

## BB16732 社会学演習VII(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB火6 通年集中

土井隆義

### 授業概要

社会学の知的伝統の一つである「アノミー論」に注目し、現代の日本社会を分析するツールとして、その論の有用性について検討する。

### 備考

延長または休日・休業中等に補講を行う。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

社会学の知的伝統の一つである「アノミー論」に注目し、現代の日本社会を分析するツールとして、その論の有用性について検討します。

### 授業の進行予定

各モジュールごとに次の要領で授業を行ないます。

春A.....演習に参加する学生全員で共通の文献を輪読していきます。報告を担当する箇所をあらかじめ配分しておき、毎回、担当者が報告を行なった後、その内容について全員でディスカッションを行ないます。

春B.....アノミー論の可能性を考える上で、学生各自が関心のあるテーマについて基本的な文献を一つ取り上げて、その文献の概要と自分の意見を報告します。その後、報告された内容と意見について全員でディスカッションを行ないます。

秋A.....アノミーをめぐる問題群の中から、学生各自が関心のあるトピックを一つ設定して、そのテーマの下で自分の考察を進めて報告にまとめます。各回とも、担当者が自らの研究成果を報告した後、その内容について全員でディスカッションを行ないます。

秋B.....ゼミ論文の構想をまとめ、その内容について各自が報告します。その後、参加者全員でディスカッションを行ない、そこで得られた意見を参考にゼミ論文を執筆します。

集中.....通常の授業時間では消化しきれない箇所については、集中授業を行ないます。

### 単位取得要件

平常点とゼミ論文を総合的に評価します。

### 授業外の予習復習方法

各自で文献を読み込み、ディスカッションに備えてください。

### 教材等

最初の輪読では下記の文献を用います。

1. ロバート・マートン『社会理論と社会構造』みすず書房



## 2. エミール・デュルケーム『自殺論』中公文庫

1についてはコピーを配布しますが、2は各自で用意してください。

### オフィスアワー

履修に関する相談は下記のとおりとします。特に定めないので面会希望者は個別に連絡してください。

人文社会学系棟 A411 4078 doi@social.tsukuba.ac.jp

面会の約束は電話かメールで行なってください。

### 学生への要望

演習は学生が主体的に作り上げるものです。ぜひ活発に発言してください。

## BB16932 社会学演習IX(2013)

3.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB木6 通年集中

森直人

### 授業概要

グローバル化の進展と新しい格差・不平等や貧困の問題、教育・労働・社会保障をめぐる「日本型福祉国家」の変容といった問題を、〈社会的なるもの〉と〈教育的なるもの〉の布置連関という仮説的な補助線を引いたうえで社会学的に考察する。

### 備考

延長または休日・休業中等に補講を行う。

### 授業形態

演習

### 授業の目標と概要

グローバル化の進展と新しい格差・不平等や貧困の問題、教育・労働・社会保障をめぐる「日本型福祉国家」の変容といった問題を、〈社会的なるもの〉と〈教育的なるもの〉の布置連関という仮説的な補助線を引いたうえで社会学的に考察する。補助線の意味を共有したうえで、外国人労働者集住地域の学校か公共職業訓練所等でのフィールドワークを行う予定である。

### 授業の進行予定

グローバル化のさらなる進展のもとで「平等と連帯」を志向する〈社会的なるもの〉の再考を課題とする。その際、本ゼミでは〈社会的なるもの〉と〈教育的なるもの〉の布置連関という分析視角を仮説的に提示する。それを参加者各自がそれぞれに咀嚼したうえで、独自の研究テーマを掲げて最終的なゼミ論文の執筆を目指す。

- (1) 春学期は本ゼミの分析視角を共有するための文献輪読を行う。文献リストの詳細は初回授業時に提示するが、事前に予習したい学生はさしあたり「教材等」にあげた文献にざっと目を通しておくとよい(関心のあるものを1から手に入る順に読むとよい)。
- (2) 春学期終了後、7月または9月に外国人労働者の集住する地域社会とそこを校区とする公立小学校、または、首都圏の公共職業訓練所とハローワークでのフィールドワーク(1日)を行う予定である。
- (3) 夏季休業中に、春学期の文献輪読とフィールドワークの成果とを踏まえて各自が秋学期に展開すべき研究テーマを構想し、自分で文献リストを作成する。
- (4) 秋学期は、夏季休業中に受講者各自が独自の研究テーマを設定し、作成しておいた文献リストをもとにした文献報告またはゼミ論構想報告を行い、それを踏まえた全員でのディスカッションを内容とする。
- (5) 秋学期終了後、一年間の研究成果をゼミ論文(12000字程度)として執筆・提出する。

### 単位取得要件

ゼミでの報告、議論での参加度・貢献度、および、ゼミ論文(12000字程度)の内容で評価。

### 授業外の予習復習方法

## 教材等

春学期に全員で輪読する文献リストの詳細は初回授業時に提示する。ここでは、あらかじめ本ゼミの問題設定を知るうえで有益な文献群をあげるにとどめる。関心のある学生は、1から順に手に入るかぎりで見を通しておくとよい。

1. 市野川容孝(2006)『社会』岩波書店.
2. ピエール・ロザンヴァロン(北垣徹訳)(2006)『連帯の新たなる哲学——福祉国家再考』勁草書房.
3. 市野川容孝・宇城輝人編(2013)『社会的なもののために』ナカニシヤ出版.
4. 森直人(2013)「20世紀福祉レジームの展開と教育をめぐる諸問題——日本の経験に即して」橋本伸也ほか編『近現代世界の国家・社会・教育』昭和堂
5. 仁平典宏(2009)「〈シティズンシップ/教育〉の欲望を組みかえる——拡散する〈教育〉と空洞化する社会権」広田照幸編『自由への問い5 教育——せめぎあう「教える」「学ぶ」「育つ』』岩波書店.
6. 広田照幸(2001)「〈教育的〉の誕生」、「戦前期の教育と〈教育的なるもの〉」同『教育言説の歴史社会学』名古屋大学出版会.
7. 森重雄(1993)『モダンのアンスタンス——教育のアルケオロジー』ハーベスト社

## オフィスアワー

メールにより随時受付

人文社会学系棟 A409 [mori.naoto.fw@u.tsukuba.ac.jp](mailto:mori.naoto.fw@u.tsukuba.ac.jp)

## 学生への要望

正規の授業時間以外に映画をみたりフィールドにでたり(予定では1回)するので、そういうものに参加してもよいと思われる方の履修を希望します。

## BB19133 社会調査実習I(2013)

6.0単位 2 - 4年次 春AB及び秋AB木6 通年集中

樽川典子

### 授業概要

ケアに関連するさまざまな営みを時間・空間・関係の視点にたつて実証的に研究する。それとともに、社会調査の手法を実践的に習得する。

### 備考

フィールド調査や実習を休暇中や休日などに行う。

### 授業形態

実習・実験・実技

### 授業の目標と概要

子育て支援に関連する営みは、行政、NPO、企業などによって提供され、母親たちの交流、外出、社会への参加をうながしている。子育てをめぐるケア空間が、家族の境界を変化をもたらした部分と変わらない部分を実証的にあきらかにする。

### 授業の進行予定

- ・イントロダクション
- ・2~5週: 子育て支援に関する先行研究の検討、調査テーマの確定
- ・6~10週: 現地見学、仮説の検討、調査法の確定
- ・春学期C: フィールド・ワーク(4日程度)
- ・1~5週: データの整理、コーディング
- ・6~10週: 分析の方向性の確定、調査報告書の作成単位

### 取得要件

出席、フィールド・ワークへの参加、報告書執筆

### 授業外の予習復習方法

### 教材等

- 1 子育て支援やケアに関する教材と、2 社会調査法に関する文献の2とおりがあ。1については、授業で紹介・配布する。
2. 佐藤郁也『質的データ分析法』新曜社、2008

### オフィスアワー

火曜日5時限

### 学生への要望

社会学研究法1をあわせて履修することが望ましい。  
授業・フィールド・ワークへの積極的な参加が調査技法の習得につながるので、doing sociologyの精神で臨んで欲しい。